

意見 (委員)	対応状況
(1)ハード整備について	
◆開発が進んでいる地域が大変冠水しているということで、この河川整備は早期にやっていただきたい。(委員)	◆前回委員会以降の河道改修、調節池建設等、今年度の事業実施予定区間と事業内容を整理。 (※整備目標に対する取組状況資料 ⇒①治水 参照)
(2)ソフト対策について	
◆ハザードマップを作成して公表すると、どういったインパクト、リアクションがあるか。(委員長)	◆ハザードマップについては、長生村では各自治会長を通じて各戸へ配布済み。現在は役場にて住民が持ち帰れるよう常置しており、村のホームページでも公表している。現在まで住民からの問い合わせ等は特になし。 ◆その他市町では、今年度ハザードマップ作成予定。
(3)流域対策について	
◆流域対策、雨水貯留施設の設置という治水対策メニューがあるが、流出量を貯めようということで、流域の状況が変わることによって水量が増えるのを抑制しようということにはなっていない。もう少し積極的な雨水貯留あるいは流出抑制というものを考えてほしい。(委員長)	◆雨水貯留浸透施設の設置状況を確認。 (※整備目標に対する取組状況資料 ⇒①治水 参照) ◆今後開発の小規模開発に際しては、浸透施設及びオンサイト貯留施設等の導入について指導していく。
(4)高潮対策について	
◆平成18年には、実際に波が堤防を越えてくるというような状況があった。地盤沈下や海面上昇などの影響も考えられ、下流住民としては非常に心配。今後、南白亀川下流の堤防の嵩上げも考えてほしい。(委員)	◆近年10年間の潮位と水位(虎橋観測所)を調査した。南白亀川河口部については、次年度から順次堤防の嵩上げ工事を実施する予定。 (※整備目標に対する取組状況資料 ⇒①治水 参照)
(5)水質管理について	
◆EM菌については、日本橋の川や大阪の道頓堀で、それなりに成果を上げている。 千葉県内でも館山や安房地区で実施事例があり、海岸のヘドロが減ったという実績が出ているので、ぜひそのあたりは研究していただきたい(委員) ◆水質浄化に効果的な微生物、EM菌は、ある程度きちっとした処理・管理をしてというのが条件である。副次的な影響が出るおそれがあり、自然の河川に投入するのはかなり注意が必要である。(委員) ◆EM菌等について、県の方は何か調査をしているか? 基本的には、もともとないものを導入する場合には非常に注意をする必要がある。(委員長)	◆EM菌の実施事例を整理。 全国的にいくつかの実施事例はあるが、地元住民団体が主体となって実施したものが多く、自治体が主体となった事例は確認できなかった。 よって、千葉県としては、EM菌による浄化効果と河川環境への影響を見極め慎重な対応を取ることとする。
(6)生物生息環境対策について	
◆生物生息環境対策ということで、堰の改修工事において魚道を施工されているが、実際に魚があまり利用しないという事例が結構ある。観察例があれば教えていただきたい。(委員) ◆何かモニタリングした情報があれば、この委員会で評価する意味がある。(委員長)	◆赤目川で設置した魚道(4箇所)において魚類等の遡上調査を実施。 (※整備目標に対する取組状況資料 ⇒③環境 参照)
(7)草刈りについて	
◆草刈りについて地域協定を結んでやっている事例があるようなので、PRして、補助までは出せないまでも、もう少し地域のボランティアみいたな形で 継続性のあるシステムを意識的に構築していかないとダメではないかと思う。(委員)	◆地元住民団体と行政が委託契約により除草している事例を収集・整理 (※整備目標に対する取組状況資料 ⇒④維持管理 参照)
(8)河川施設の管理について	
◆洪水時の堰の運用に関して、農業用水がもともと不足していた地域なので、実態としてなかなか堰を開放しないというのが現状である。河川管理者と堰の管理者を含めて対応を協議できればいい。(委員)	◆雨量、水位等の洪水情報については、毎年千葉県水防計画を策定し、各現地指導班(地域整備センター)が管内の関係機関と水防連絡会議を開催し情報伝達等の確認を実施しており、この中で堰管理者への対応を図っている。